

神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS 第112号

平成30年1月28日発行
事務局：県立青少年センター
科学部 科学支援課
電話：045-263-4470

子ども達の笑顔あふれるイベント

1月21日(日)に、県立青少年センターにて「青少年センター子どもフェスティバル」が開催されました。参加団体の出展・出演を楽しむ子ども達で、1日中にぎわいました(来場者数は約1,100名)。子ども達の笑顔あふれるイベントは、青少年センターによく似あいます。

今回は、その様子を報告します。



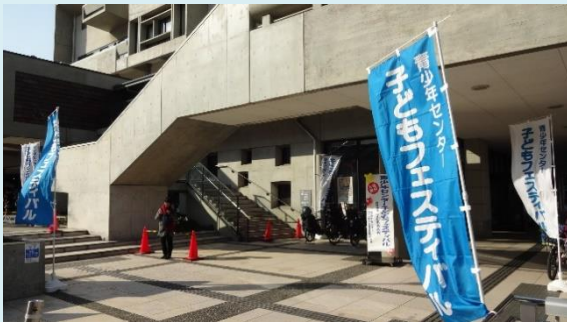
「子どもフェスティバル」とは

青少年センター主催、「神奈川県子ども会連絡協議会」共催の行事です。子ども会などによる工作・あそび・紙芝居・模擬店・アニメ上映・ステージ発表などを楽しむイベントです。今年は20団体のブース出展と

9団体のステージ発表がありました。

本協議会の会員の皆さんに出展していただいて8月に開催した「科学の祭典」のようなお祭りです。

(科学部が事務局を務めている「子どもサイエンスフェスティバル」とは別ものです。)



「子どもフェスティバル」ののぼりが子ども達をお迎え(とても良い天気でした。)



ホワイエに設置された、風船で作ったトンネル(前日に青少年センター職員が作りました。)

科学部も出展

このイベントに、科学部も「わくわく科学工作」「どきどきプチロボ操縦体験」「おもしろ科学実験ショー」「巨大空気砲を発射せよ!」で出展・出演しました。

1 わくわく科学工作



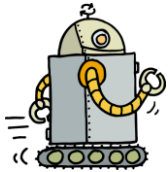
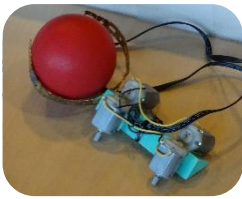
ペットボトルと風船を利用した「空気砲」の工作です。紐を結んだり、はさみで切ったり、ビニールテープを巻いたり、いくつかの工程を経て10~15分ぐらいで完成です。「おもしろ実験・科学工作指導者セミナー」の修了生の方が工作指導をしました。

お父さんと一緒に、小学校低学年くらいの男の子が来ました。なかなか思うように作業ができないのですが、お父さんが手伝おうとすると「自分でやる!」と言い張っていました。負けず嫌いで、こだわりを持つところは、将来の科学者の素質あり!でしょうか。



2 ときどきプチロボ操縦体験

3分以内に“公式コース”を完走できた子ども達には、完走賞を渡しました。子ども達の操縦補助は、科学ボランティアの高校生が行ってくれました。



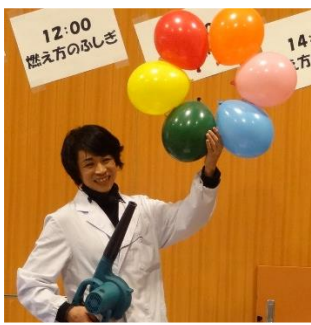
基本的な操縦方法の説明を聞きながら、自分の順番が来るのを待ちます。



持ち時間は3分です。3分以内のゴールは、実は大人でもなかなか難しい！

3 おもしろ科学実験ショー

こちらは、「おもしろ実験・科学工作指導者セミナー」の修了生の方による実験ショーです。「空気のおふしぎ」と「燃え方のふしぎ」というテーマでそれぞれ2回ずつのショーを行いました。セミナーで練習した実験に各自でアレンジを加えて、楽しい実験ショーを披露していただきました。



12:00
燃え方のふしぎ



(上)空気のおふしぎ
(下)燃え方のふしぎ



実験ショーの“ヤマ場”となる場面であまくいと、お客さんから大きな拍手が聞こえました。



4 巨大空気砲を発射せよ！

ステージショーの最後を飾ったのは、科学部が製作した「巨大空気砲」です。縦・横180cmの日本最大級(?)の空気砲です。



子どもが余裕で入れるほどの大きさの巨大空気砲にスモークを充滿させて準備完了。空気砲を打ちたい子ども達にステージに上がってもらい、ステージから観客席に向かって発射！白い煙の塊がすぐに輪の形になり、大きな輪がゆっくりと観客席後方の壁まで移動していく様子に、大人からも歓声が上がりました。

事務局から

先日1月22日(月)は4年ぶりの大雪になりました。右の4つは、大雪の翌日、横浜で見つけた雪だるま達です。小さいもので数10cm(一番左)、大きいものでは1m(一番右)もありました。通勤にはちょっと困りものの雪も、雪だるまになると癒されます。(事務局 : 村上、高相、山田、宮城)



ある居酒屋の前



ある会社の前



あるマンションの前



あるラーメン屋の前